

狭小空間と立体的なオープンスペース

FEBRUARY 2021

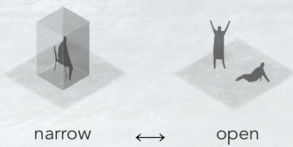
SECOND GRADE | HOUSING COMPLEX | DAIKANYAMA



concept

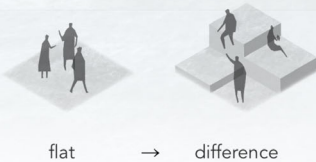
狭小空間

この住宅の諸室は人が生活する上で必要最低限の広さに設計した。あえて内部空間を狭くすることによって、外部のオープンスペースを利用するきっかけになる。また、狭い空間に落ち着きを感じる人間の心理的特性も考慮した住宅にする。内向的な狭小空間と解放的なオープンスペースの対比構造を作ることによって多様な空間を生む。そうしてできた空間は様々な生活スタイルに順応する。



立体的なオープンスペース

一般的なオープンスペースは複数人で利用することを想定している。しかし、集合住宅でのオープンスペースは少人数での利用が好ましい。ひとつひとつのスペースの平面距離は近いがレベルが違うことによって個々のスペースとしての心理的距離を作ることができる。状況によってはレベル差によって生まれた段差や踊り場が住人の集まる共有空間になることもある。



diagram

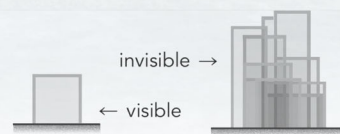
幾何学的操作による空間の立体化

立体的なオープンスペースを作るための幾何学的操作を考える。門型の形状を最初に想定する。次に建物を分離し、建物を人の生活のスケールに応じて変化させる。分割した建物を一つの建物として再構築し、立体的な建物をつくる。立体的なオープンスペースが多様な空間を生み出す。



重なりによる不可視化

門型の形状による問題点はプライバシーが失われてしまうことだ。この問題を重なりによって解決する。例えば、浴室などのプライベート性の高い部屋の前後に門型の形状を配置する。建物にある家具や間の植栽が重なることで、奥の空間は見えなくなっていく。



site

オープンスペースの街「代官山」

課題の敷地は再開発の福音の途絶えない渋谷からわずか一駅の代官山。代官山は古くからの武家や商家の屋敷がたざんざんいた街。植文彦の設計したヒルサイドテラスの建築群をはじめとする、低層でオープンスペースを多く設けた建物が代官山のゆとりのある街をつくる。敷地の正面にあるT-Siteなどの多くの施設がヒルサイドテラスの思想を継承していることは疑う余地もない。本設計では入り組んだ空間にして建物の間に植栽やオープンスペースを多く設けゆとりある空間をつくる。それにより、ヒルサイドテラスが作り上げたオープンスペースの街「代官山」の街並み、文化、歴史を継承する。



study

幾何学操作によって生まれる段差と隙間

様々なスケールの門型フレームを複雑に組み合わせることによって生まれる段差や隙間。それらの特徴を活かしながら人が生活する空間として、建物を構成していく。スタディ模型をつくりながら作りたい空間のイメージを設計に落とし込む。特に段差と隙間に焦点を当ててスタディを行う。

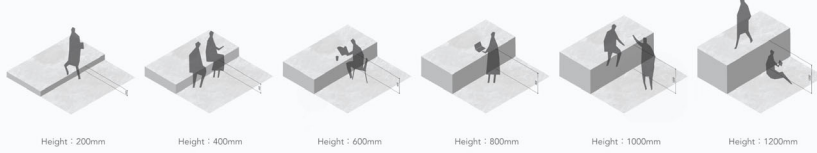
1. 段差スタディ

立体的なオープンスペースを作るにあたり、段差の高さによる人の過ごし方や上段と下段の関係性について考察し設計に取り入れる。

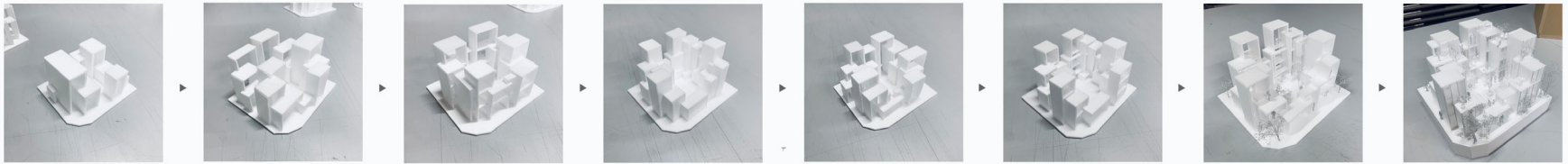
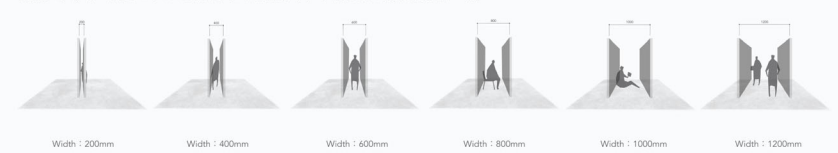
2. 隙間スタディ

門型のフレームが重なることによって生まれる隙間。隙間の幅によって人の過ごし方の違いや、手前と奥の関係性を考え設計に取り入れる。

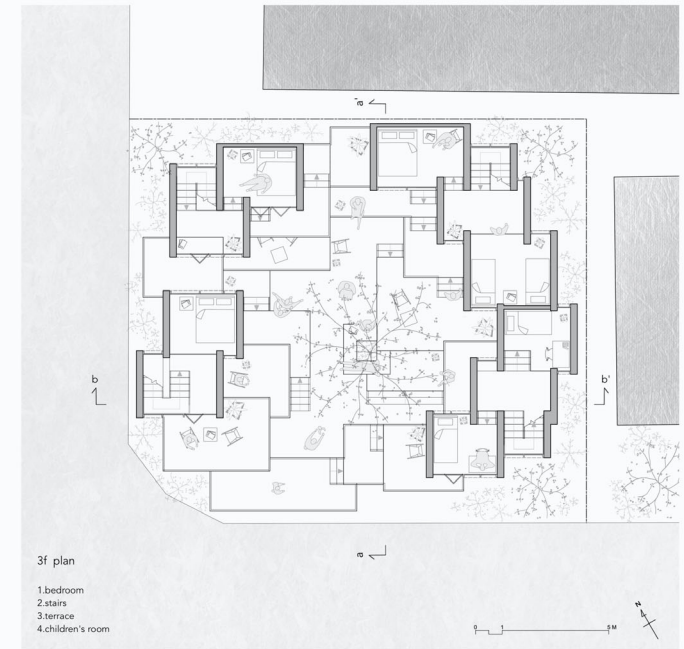
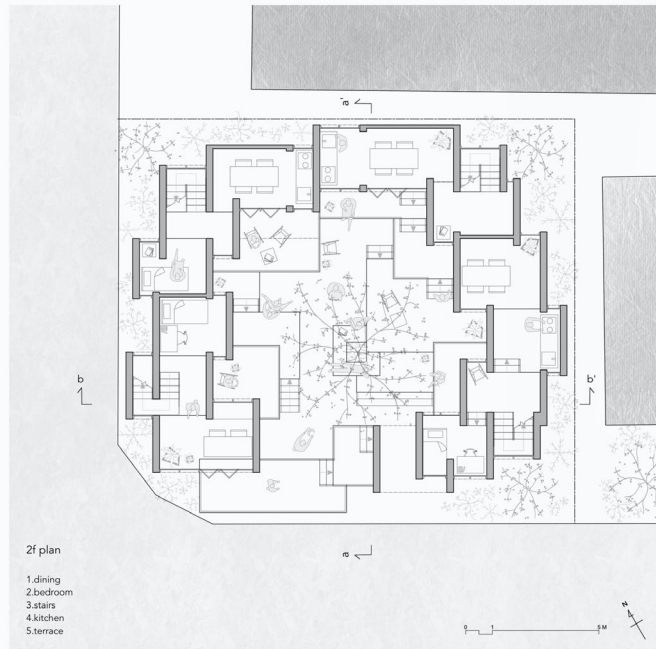
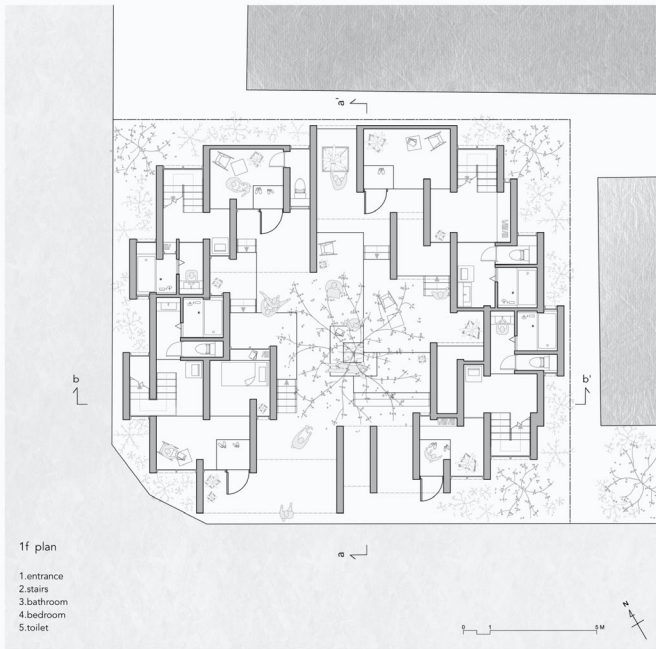
段差スタディ 段差によって期待される出来事や、下段と上段の関係性を調べる。



隙間スタディ 隙間によって期待される出来事や、手前と奥の関係性を調べる。



plan



section

